

入口にある補助資料を
お取りください

グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成

Community Project

大阪教育大学附属池田中学校
CPコーディネーター 中田 未来
ATLコーディネーター 三好 達也



本日の流れ

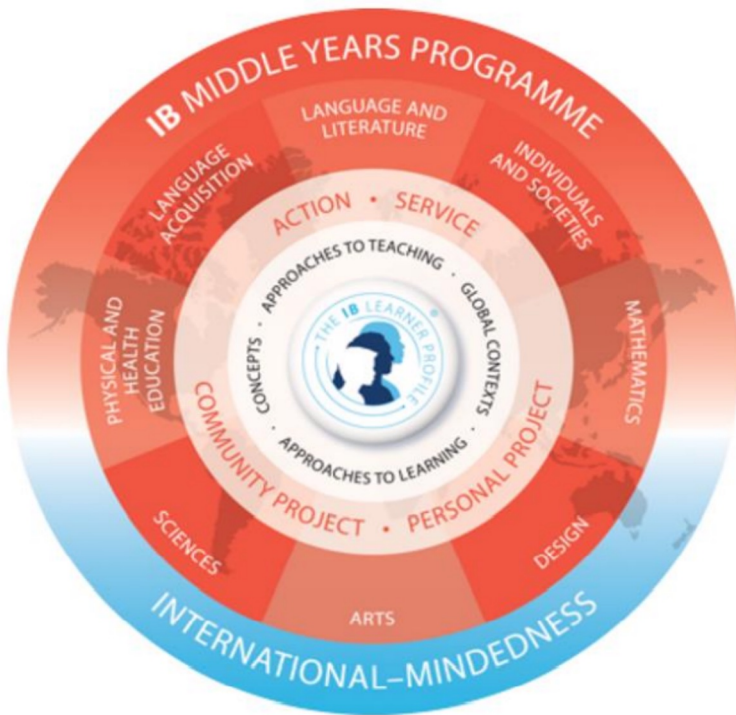
- 1.はじめに
- 2.取り組みの概要
- 3.生徒のすがた
- 4.成果と課題
- 5.組織的に取り組む工夫
- 6.生徒の活動内容発表



1. はじめに Community Projectとは



Community Project(CP) とは

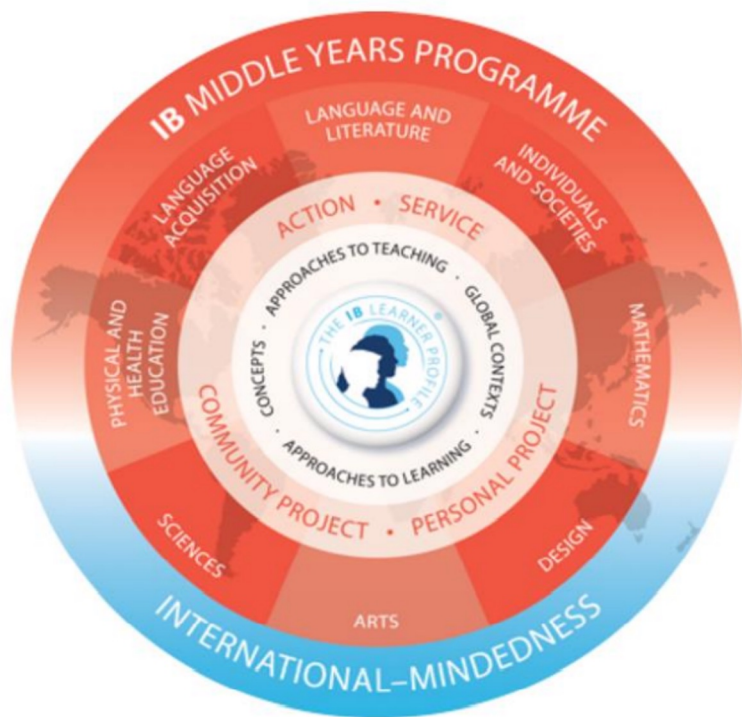


様々なコミュニティー
(学校・地域・国)

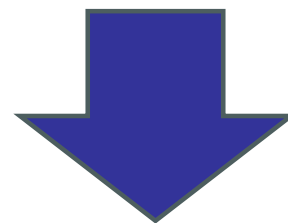
が抱える課題を生徒（複数人）が
調査し、その解決のために自身の
興味や熱意を生かした活動を考え、
実行する取り組み



Community Project(CP) とは



IBの中では3年間で
最も重要な学習という位置付け



総合的な学習の時間で実施

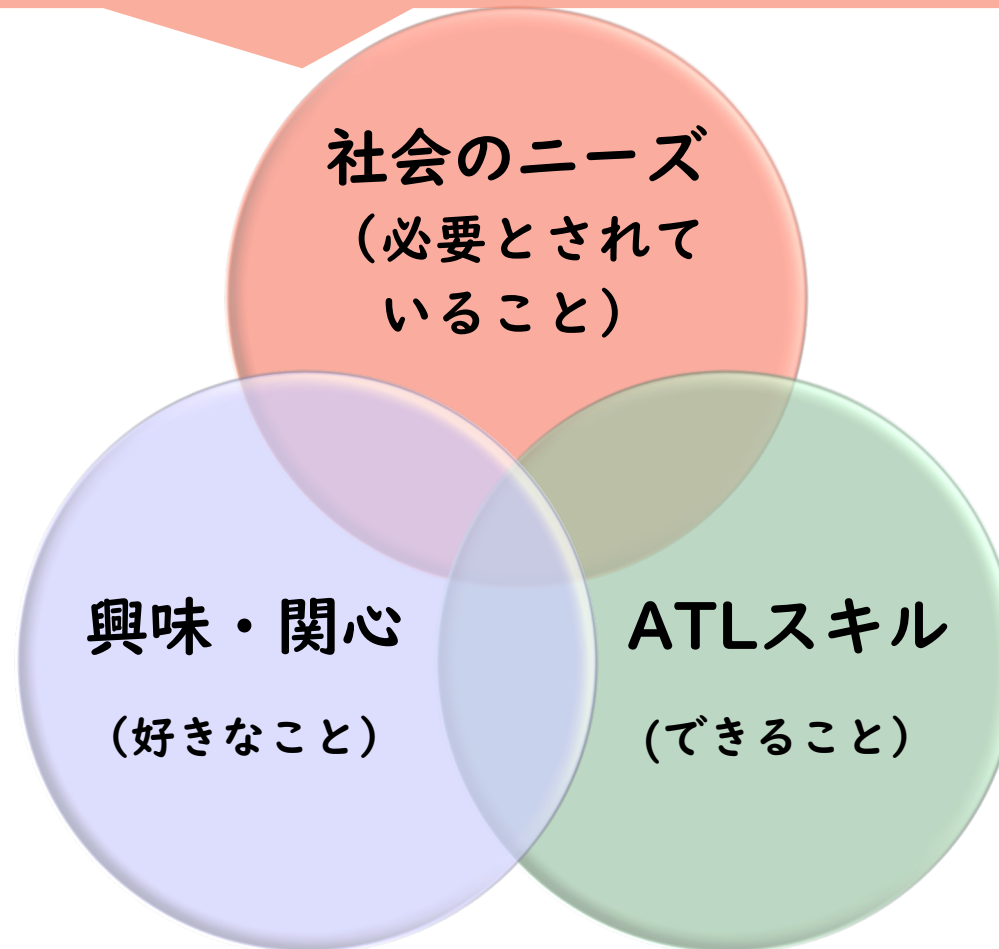


CPの目標

- I 社会のニーズを知り、社会における自分の役割について深く理解する
- II 平和な世界を創造するために、グローバルな視点を持って、探究する
- III 活動を通して社会について学び、自分の能力を高める
- IV ATLスキルを高める
- V 生涯にわたって学び続ける気持ちや自立心を高める



ニーズがあるのか？



ATLスキルとは

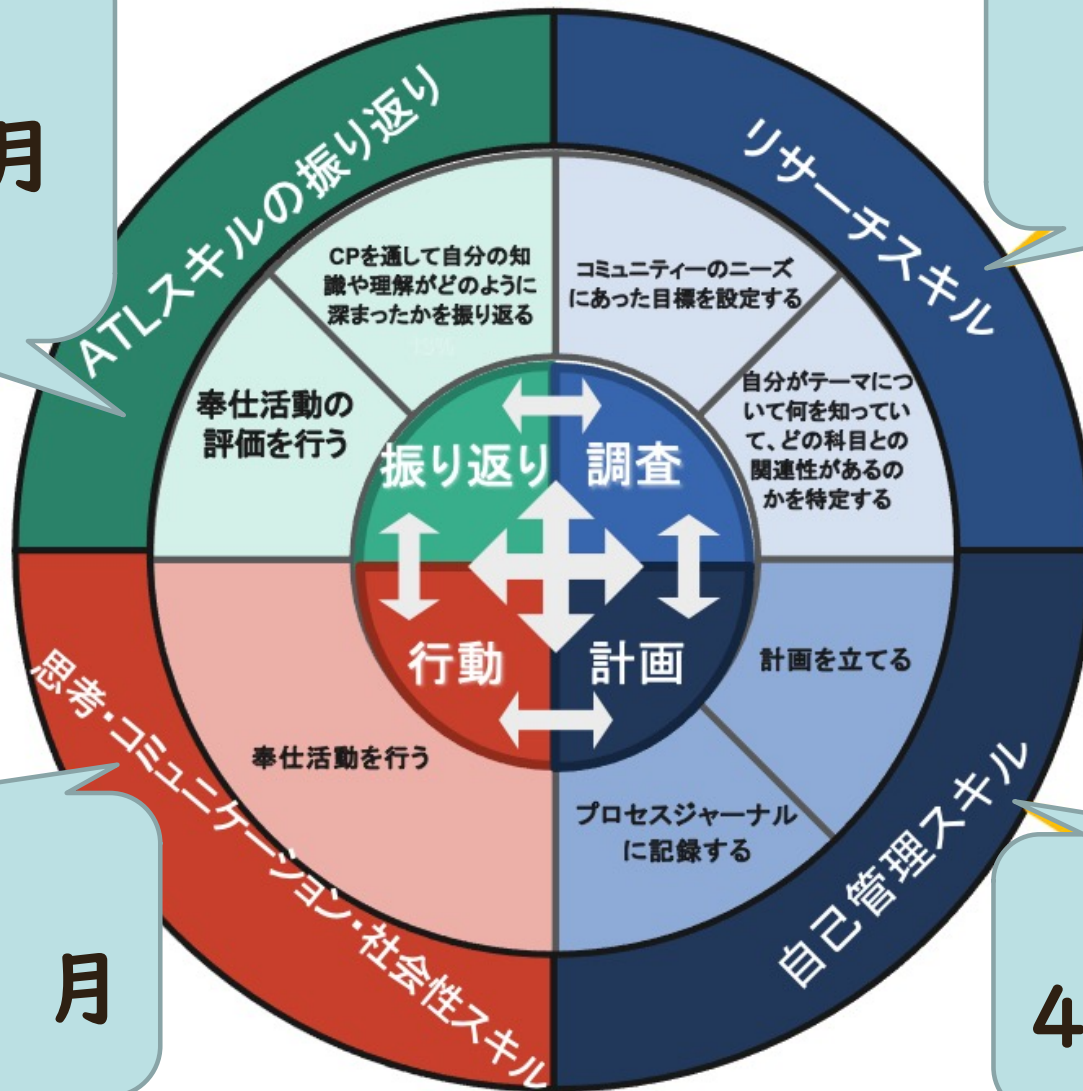
各教科での学習目標に到達するためのツール
どの程度身につけているかを確認することでよりよい学びを目指す

| | | |
|----|--------------|--------------------------------|
| 行動 | コミュニケーションスキル | コミュニケーションスキル |
| 行動 | 社会的スキル | 協働スキル |
| 計画 | 自己管理スキル | 整理整頓スキル 情動スキル 振り返りスキル |
| 調査 | リサーチスキル | インフォメーションリテラシースキル メディアリテラシー |
| 行動 | 思考スキル | 批判的思考スキル 創造的思考スキル 転移スキル |



3年生
9～11月

2年生
3学期



| 時期 | 時間数 |
|----------|---------|
| 2年生3学期 | 12時間 |
| 3年生4～6月 | 12時間 |
| 3年生7・8月 | 4時間 + α |
| 3年生9～11月 | 11時間 |

約40時間

3年生
7・(8)月

3年生
4・5・6月



CPの流れ（段階ごとに提示）

2年生でのスケジュール (A:調査)

| 週 | 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時間 | 内容 |
|---|----|---|----|----|----|----|
| 1 | 1 | 1 | 27 | 金 | 5 | ① |
| | 2 | | 30 | 月 | 6 | ② |
| 2 | 3 | | 1 | 水 | 6 | ③ |
| | 4 | | 3 | 金 | 6 | ④ |
| 3 | 5 | | 8 | 水 | 6 | ⑤ |
| | 6 | | 10 | 金 | 6 | ⑥ |
| 4 | 7 | | 13 | 月 | 6 | ⑦ |
| | 8 | | 15 | 水 | 6 | ⑧ |
| | 9 | | 17 | 金 | 6 | ⑨ |
| 5 | 10 | | 3 | 3 | 金 | 6 |
| | 11 | 3 | 7 | 火 | 5 | 11 |
| 7 | 12 | 3 | 7 | 火 | 6 | 12 |

調査の段階でする具体的な活動内容

| ① | オリエンテーション・ガイドを使ったワーク、事前ATLスキルチェック | P3~5,7~35 |
|----|--|-----------|
| ② | ガイドを使ったワーク・先行事例の調査 | P37~41 |
| ③ | 先輩に学ぶ【3年生にインタビュー】 | |
| ④ | ガイドを使ったワーク(個人でのテーマ設定) | P6,42~44 |
| ⑤ | グループ決め① | P44 |
| ⑥ | グループ決め② | P45,49~51 |
| ⑦ | ニーズの確認【ニーズ調査の仕方】 大枠としてのニーズがあるか(公的な資料) | P45,49~51 |
| ⑧ | ニーズの確認作業【インタビューやアンケートの作成】 | P46~48 |
| ⑨ | ニーズの確認作業【インタビューやアンケートの作成】 | P46~48 |
| ⑩ | ニーズに合った目標の設定、ルーブリックをつくる | P53,54 |
| 11 | 自分の知識と教科との関連性を示す。 引用参考文献の記入 | P55~57 |
| 12 | A:調査の振り返り、事前ATLスキルチェック | |

3年生(1学期)のスケジュール (B:計画 C:行動)

計画・行動の段階でする具体的な活動内容

| 日 | 回数 | 内容 | 時間 |
|---------|-------|---|---------------|
| 4/12(水) | 1 | オリエンテーション・事前ATLスキルチェック(B:計画) SV発表、ガイドを使ったワーク[5WIH] | ガイド 30~36 |
| 4/14(金) | 2 | ガイドを使ったワーク[5WIH]完成 SV面談用資料作成、PJ | 30~36 |
| 4/26(水) | SV面談① | 計画の進め方 SVIに活動内容計画を発表→5WIHをもとに その場で次回までの課題をメモして提出 | |
| 5/19(金) | 3 | SV面談の資料をもとに5WIHの書き直し PJ | 30~36 |
| 5/31(水) | 4 | 活動先との連絡の仕方について Presentationの作り方について B:計画の続き | 15.40.41 |
| 6/2(金) | 5 | Final Reportの書き方について ボランティアスピリットアワードについて B:計画の続き、PJ | 9~13 38.39 |
| 6/7(水) | 6 | B:計画の続き、C:行動の準備 Plan of Actionの作成 | 30~36.37 |
| 6/7(水) | SV面談② | Actionの確認、活動日、活動内容の確定 Plan of Action 提出 | |
| 6/9(金) | 7 | B:計画の完成、C:行動の準備 事後ATLスキルチェック(B:計画)、PJ | 9~13 |
| 6/14(水) | 8 | 事前ATLスキルチェック(行動) Final Report(1.introduction) C:行動におけた活動を進める、PJ | |
| 6/16(金) | 9 | Final report,ボランティアスピリットアワードの記入 C:行動におけた活動を進める、PJ | |
| 6/21(水) | 10 | Final report,ボランティアスピリットアワードの記入 C:行動におけた活動を進める、PJ | |
| 6/22(木) | 11 | Final report,ボランティアスピリットアワードの記入 C:行動におけた活動を進める、PJ | |
| 6/23(金) | 12 | Final report,ボランティアスピリットアワードの記入 C:行動におけた活動を進める、PJ | |
| 7/5 | 13 | Final report,ボランティアスピリットアワードの記入 C:行動におけた活動を進める、PJ | |
| 7/7 | SV面談③ | SVIにここまで取り組み経過の報告、今後の動きの確認 最終宣誓書の記入 | |

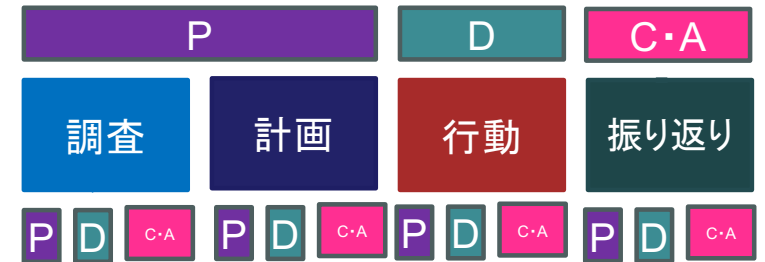
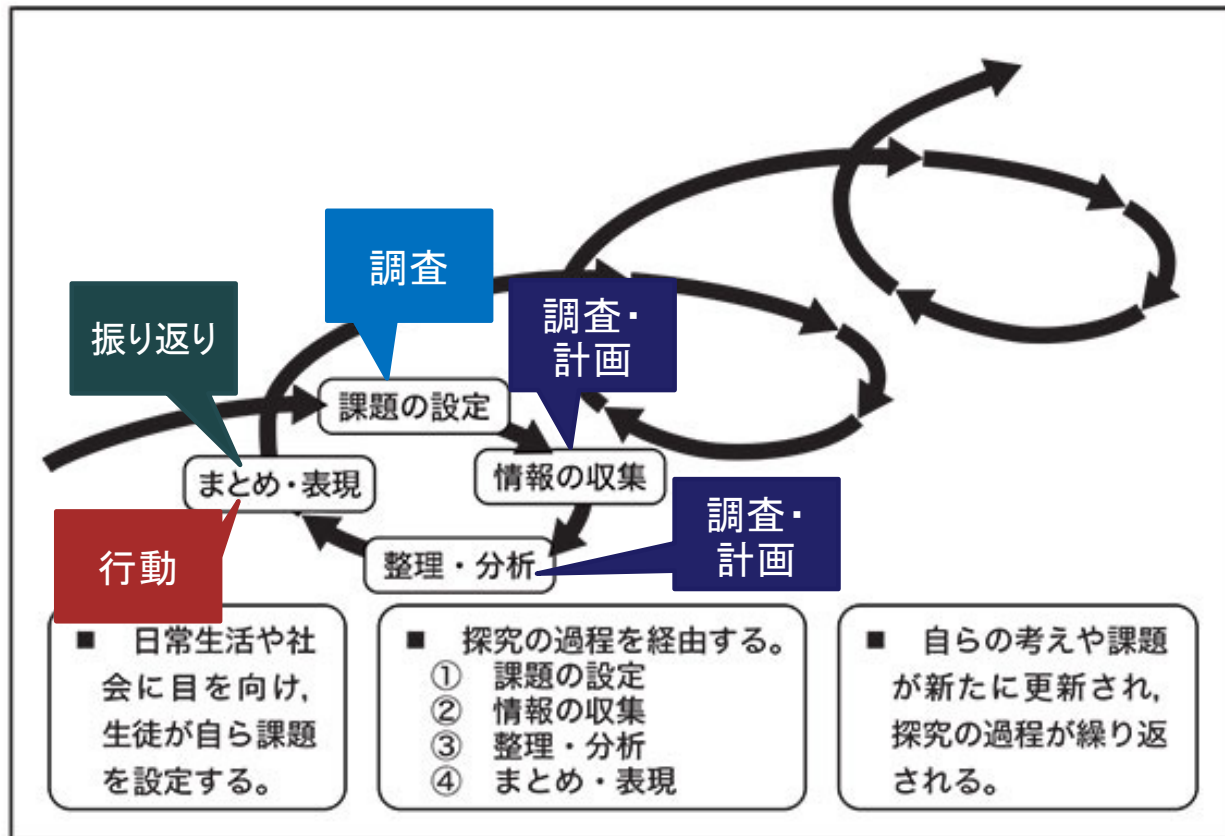
3年生(2学期)のスケジュール (D:振り返り)

D(振り返り)でする具体的な活動内容

| 日 | 回数 | 内容 | 時間 |
|----------|-----|--|---------------------|
| 8/24(木) | 1 | (C:行動)事後ATLスキルチェック、PJ VSA、中間発表のスライド、原稿資料の作成 | ガイド 15.38.39 |
| 8/28(月) | 2 | VSAの資料作成 中間発表のスライド、原稿資料の作成 | 15.38.39 |
| 8/30(水) | 3 | VSAの完成提出 中間発表のスライド、原稿資料の作成 | 15.38.39 |
| 9/1(金) | 4 | 中間発表のスライド、原稿資料の作成 | 15 |
| 9/4(月) | 5 | 中間発表のスライド、原稿資料の完成 | 15 |
| 9/6(水) | 6 | 活動先へのお礼状の作成 中間発表のスライド、原稿資料を使った発表練習 | 15.42.43 |
| 9/6(水) | 放課後 | SV面談(スライドを使ってプレゼン発表) 中間発表に向けてSVIにアドバイスもらう。 最終宣誓書2回目の記入 | 14 |
| 9/11(月) | 7 | 中間発表用スライド・原稿の修正 Final reportの作成 | 9~13.15 |
| 9/15(金) | 8 | 中間発表用スライドを使った発表練習 Final reportの作成 | 9~13.15 |
| 9/20(水) | 9 | CP中間発表 | |
| 10/4(水) | 10 | 最終発表に向けてのスライドや原稿の修正 Final reportの作成 | 9~13.15 |
| 10/6(金) | 11 | 最終発表に向けてのスライドや原稿の修正 Final reportの作成 | 9~13.15 |
| 10/18(水) | 12 | 最終発表に向けてのスライドや原稿の修正 Final reportの完成 | 9~13.15 |
| 10/25(水) | 13 | Final reportの内容を確認し、SV面談に備える | |
| 10/27(金) | 放課後 | SV面談【個人面談】 (Final reportを使った取り組み活動の報告) 最終宣誓書3回目の記入 | 自分の Final report |
| 11/3(金) | 文化祭 | CP最終発表 | |
| 11/9(木) | 14 | Final reportの提出 最終宣誓書の記入・提出 | |

総合的な学習の時間との関連

探究的な学習における生徒の学習の姿



グループによっては、行動のCをした後に、計画のPに戻るグループなどもあります。



生徒、教員、保護者を巻き込み組織的に取り組む

生徒用ガイド 一部抜粋



COMMUNITY PROJECT
生徒用ガイド

CPを始めるための6つの問い

心あなたが興味を持っているトピックは何ですか。

① ② ③ ④ ⑤

①で選んだトピックとつながりが深い教科は何か (複数回答可)

② あなたの得意なこと・強みは何ですか。

③ あなたが社会にできること・したいことは何ですか。

④ あなたの強みは何ですか。

⑤ あなたはCPを通してどんな自分になりたいですか。

6

2年生の予定・年間スケジュール



8

CPを通して伸ばすATLスキルとは③

自己管理スキル

オーガニゼーションスキル

- ・スケジュールを把握し、締め切りを守る。
- ・プロジェクト全体の道筋を計画する。
- ・適切なゴールの設定し、それを達成できるような計画を立てる。
- ・進み具合を管理する。
- ・情報を、書き留めたり音声や画像で残し、適切に管理する。
- ・忘れ物をしない。
- ・目的によって様々な情報媒体 (インタビュー・ネット検索・アンケート・本など) を使い分ける。

12

評価について

規準 A: 調査

「大阪エディンプログラム」において、生徒は以下の3つの目標を達成する必要がある。達成状況を確認し、その達成度に応じて評価を行う。また、その達成度に応じて評価を行う。

| 評価 | 評価内容 |
|-----|---|
| 0 | 実施し、以下に該当しないものがない (達成していない) |
| 1-2 | 実施し、以下に該当するものがある (達成している) 1. 個人やグループで、コミュニティへの関心や関与を高めるための目標を設定しているが、その目標が明確で具体的でない。 2. 目標達成のための計画やスケジュールを立てていない。 3. 進捗状況や進捗率を確認していない。 |
| 3-4 | 実施し、以下に該当するものがある (達成している) 1. 個人やグループで、コミュニティへの関心や関与を高めるための目標を設定しているが、その目標が明確で具体的でない。 2. 目標達成のための計画やスケジュールを立てていない。 3. 進捗状況や進捗率を確認していない。 |
| 5-6 | 実施し、以下に該当するものがある (達成している) 1. 個人やグループで、コミュニティへの関心や関与を高めるための目標を設定しているが、その目標が明確で具体的でない。 2. 目標達成のための計画やスケジュールを立てていない。 3. 進捗状況や進捗率を確認していない。 |
| 7-8 | 実施し、以下に該当するものがある (達成している) 1. 個人やグループで、コミュニティへの関心や関与を高めるための目標を設定しているが、その目標が明確で具体的でない。 2. 目標達成のための計画やスケジュールを立てていない。 3. 進捗状況や進捗率を確認していない。 |

20

教師用ガイド 一部抜粋



SV用 CPガイド

第5回 SV面談内容

3回目 9月6日

- ・ 中間発表 (約1週間後) のプレゼンのリハールをさせる
- ・ 実際に時間を測って (1チーム10分) スライドを使いながら発表させてください。
- ・ 内容のアドバイスをお願いします。
- ・ 流れについては決まった型がありますが、それを大きく変えることはないようにしてください。(生徒用ガイドp 参考)

こんな場合は活動が流れ気味です

SV面談以外に相談する時間を作ってください

- ・ スライドが完成していない
- ・ 話す内容や役割分担ができていない

上記が当てはまらなければOKです

I. Final report D-1 の評価

1・2

評価に関する説明がない

3・4

詳細に何をするのかを載せていないが、評価の観点に対しては具体的な説明が載っている

5・6

評価の観点に対しては具体的な説明が載っているが、評価の観点に対しては具体的な説明が載っていない

7・8

評価の観点に対しては具体的な説明が載っているが、評価の観点に対しては具体的な説明が載っていない

評価の観点に対しては具体的な説明が載っているが、評価の観点に対しては具体的な説明が載っていない



大阪教育大学附属池田中学校
Community Project
For parents
Middle Years Programme

保護者用ガイド

本校HPから動画で配信



教員の役割

生徒のグループ数→46

副校長も含め、教員全員が
スーパーバイザー (SV) を務める
1グループに1名のSV

他学年の担任→1グループ

他学年の担任外、管理職
→2グループ

3学年担当→3・4グループ

SVガイドをもとに進める。

SVの役割

☆ チャレンジングな活動にするためのタイムリーで具体的なアドバイスをする

☆ オーガニゼーションスキル（時間管理・提出物管理）の補助

- ・ 年間計画通りに進むよう、進捗状況を確認し、進んでいない場合はサポートをする
 - × 提出できていないと怒る
 - すべきことを5W1Hに分けるなどのサポート

7月中にActionを終わらせることがとても大切です！！

☆ Action（奉仕活動）を実際の活動場所で見学する

☆ Final Report, Presentationの内容、話し方についてのアドバイスを行う。

アドバイスやフィードバックは

- ・ 総合の時間後、ロイロノートに提出されたPJへ
- ・ SV面談で
- ・ 必要に応じてSVからアドバイスをする時間を捻出し、生徒に声を掛ける



3. 取り組みの概要



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

活動の全容を知る

ガイドを使ってのオリエンテーション
活動の目的やゴールを共有し、共通理解を図る



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

活動テーマを考える（個人）

CPを始めるための6つの問い

①あなたが興味を持っているトピックは何ですか。

| | | | | | |
|------------------|--------------|-------------------|-----------------|----------------------|------------------|
| 1 家族を大切にしたい | 2 食料を大切にしたい | 3 すべてにAC（環境と健康） | 4 読書の大切さをみんなに | 5 ジェンダー平等を推進しよう | 6 安全な水とトイレを世界中に |
| 7 エネルギーを安全に利用しよう | 8 働きがいも経済成長も | 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | 10 人や国の不平等をなくそう | 11 住み続けられるまちづくりを | 12 つくばるものをつくり直そう |
| 13 陸域生態系に具体的な目標を | 14 海の豊かさを守ろう | 15 陸域生態系も守ろう | 16 平和と正義をすべてにAC | 17 パートナーシップで目標を達成しよう | SDGs |
| 動物愛護 | 芸術・文化 | ICT | その他 | | |

②①で選んだトピックとつながりが深い教科は何ですか（複数回答可）

③ あなたの得意なこと・強みは何ですか。
例：パソコンの操作・人前で話すこと・楽器が弾ける など

④ あなたが社会にできること・したいことは何ですか。

⑤ ④の理由は何ですか。

⑥ あなたはCPを通してどんな自分になりたいですか。

興味のあるトピックが
生徒自身の強みや
今までに身につけた知識と
どう繋がるのか分析し

社会にできることは何かを
考える



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

考えるための手立て

過去の先輩の取り組みから学ぶ

| | | |
|----|---------------------------|--|
| 1 | 衣服大量廃棄問題についての現状発信・改善 | |
| 2 | 保護犬・保護猫の快適な暮らしのサポート | |
| 3 | バスをより快適にするために | |
| 4 | 保育士不足の現状を理解し保育士増加に貢献する | |
| 5 | 見た目の差別や偏見がない未来へ | |
| 6 | 過疎地域の活性化 | |
| 7 | 病気の子どもたちを笑顔に! | |
| 8 | 繋げよう、食と子供。 | |
| 9 | 子ども食堂でのボランティア活動と人材募集 | |
| 10 | 学習サポートグループ～子どもたちの学習を支援する～ | |

| | | |
|---|---------------------------------|--|
| 1 | 日本が抱える“こども”の問題 | |
| 2 | 動物愛護を世の中に | |
| 3 | 殺処分される動物たちを減らす | |
| 4 | 犬・猫の暮らしの安全性を高めるために | |
| 5 | 品質に問題のない食材で子ども食堂へのフードドライブを行う | |
| 6 | 殺処分の現状を発信し、ひとつでも多くの命を救うために活動する。 | |
| 7 | 幼稚園生に多様性について知ってもらおう。 | |
| 8 | 生理用品の日用品化を目指す! | |

Community Project
～子供達に笑顔を～

1. Introduction (はじめに)

テーマ「乳児院」に行き自分が知らない社会的側面を知り、発信する
サービスタイプ: Direct Service(ダイレクト)
グローバルな文脈: アイデンティティーと関係性
生徒名: [REDACTED]
目標: 乳児院に直接伺い、現状や課題を知り、多くの人に広める。

具体的には、乳児院の職員の方に課題や現状を伺う事によってそれらを把握し乳児院における「問題解決」というニーズを満たす。

2. Investigation (予備調査)

(1)なぜこのテーマを選んだのか

ニュースやSNSで「養護施設」という言葉は知っていたが、それに関する詳しい情報を知らなかった。なので自分達の方で調べたいと考えたから。また、周りの人たちも養護施設に関する情報を知る人が少なく、同じ地域に住んでいるのに一部の社会の状況しか知らなかった。だから、より多くの人に「養護施設」という存在を知って欲しかったから。

(2)ニーズの確認方法・確認対象や確認結果

(ニーズ確認の方法)

- ・施設の方と連絡を取り合いニーズを確認する (確認対象)
- ・伊丹乳児院 ・他も入れる (確認結果)
- ・伊丹乳児院

(3)ニーズに対する解決策の比較

①方法1

児童養護施設に直接行き、施設の児童達と直接触れ合ったり職員の方に児童養護施設の現状を教えてもらい、SNSやポスターを通して広めたり、施設で不足しているもの(服や文房具)を学校で集めて寄付する。

②方法2

乳児院に直接行き、施設の子ども達のお世話を手伝ったり、施設の問題点・現状について職員の方に伺い、自分達でその問題点に対する解決策を考えて提示する。

(4)どの解決方法を自分たちは選んだのか、またその理由。

②の解決方法を選んだ。なぜなら、①のように自分達が養護施設に伺ってしまうと同じ年齢層の人もいて不快な思いをさせてしまう可能性があるからだ。

3. Planning (計画)

(活動の概要)

サービスタイプ: Direct Service(ダイレクトサービス)
目的: 乳児院の現状や問題点を知り、自分達で解決策を考え、実行に移す。

内容: 乳児院で生活する子ども達と直接触れ合ったり、施設の職員の方にお話を伺ったりすることで現状や課題について知り、解決策を考える。

対象: 伊丹乳児院に住んでいる子供達と働いている方々
コスト: 綿内細菌検査キット→1500円
伊丹市営バス→210円

(計画の概要)

| | |
|-----|------------------------------------|
| 5月 | 活動場所の決定 |
| 6月 | 伊丹乳児院での具体的な活動・日程・PRESENTATION ①②③④ |
| 7月 | 伊丹乳児院での活動・ファイナルレポートの4・5(1)(2) |
| 8月 | ファイナルレポート5(3)(4)、PRESENTATION ⑤⑥⑦ |
| 9月 | プレゼンテーションの中間発表 |
| 10月 | ファイナルレポートの作成 |
| 11月 | 最終プレゼン |

4. Action (活動)

(乳児院での現地活動)

デジタルデータで共有



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

活動テーマを考える（個人）

興味のあるテーマに
取り組んだ先輩に
直接話を聞きに行く

苦勞したことは？

活動場所は？

コロナ禍での
制限は？

楽しかった
ことは？



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

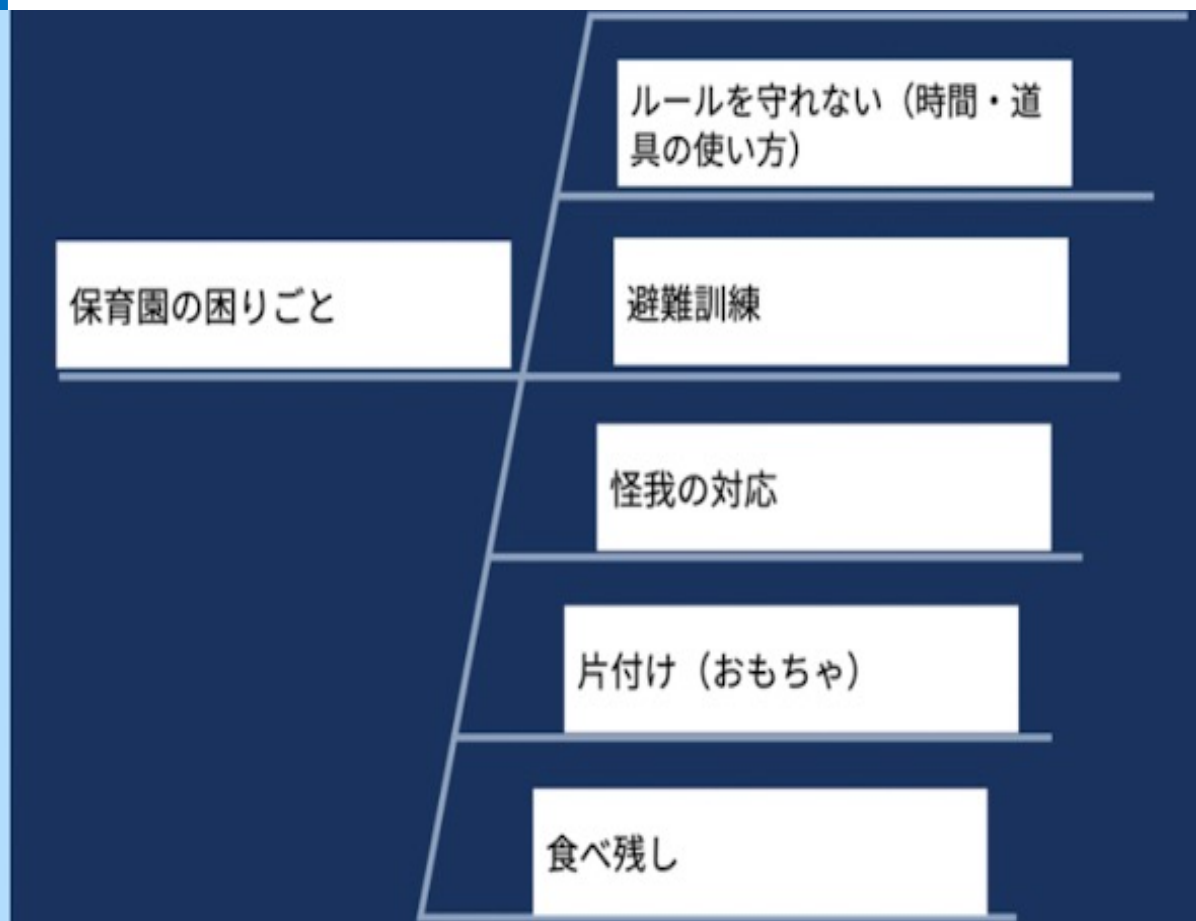
3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

活動テーマを考える（個人）

既存の知識を用いてニーズの
アイデアを出す。



調査

2年
3学期

計画

3年
5月,6月

行動

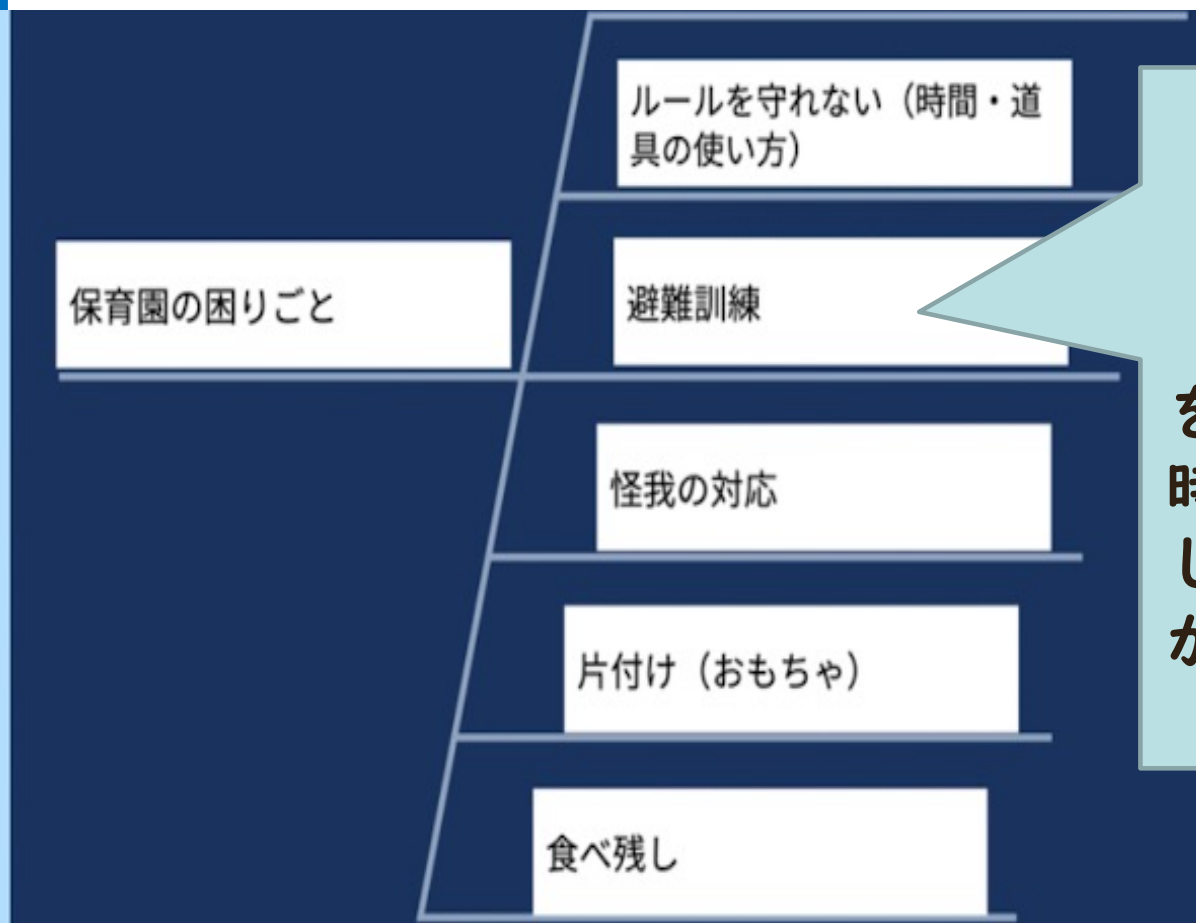
3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

活動テーマを考える（個人）

既存の知識を用いてニーズの
アイデアを出す。



附小で行っていた
安全科の知識を
転移させ
「避難訓練の重要性」
を保育園に当てはめた
時に、乳児は走れない
し幼児も怖がると避難
が難しいのではないかと
考えた。



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

活動グループを決める

①あなたが興味を持っているトピックは何ですか。



例：「全ての人に健康と福祉を」を選んだ生徒の個人テーマ

「保育園」での食育

いじめは何故起き、どうやって起き、どうなるのか。いじめがなくなるのは何故？

ヘアドネーション

ヘアドネーション

ヘアドネーションについて

運動の楽しさを伝え、運動不足解消の手伝いをする

運動を子どもに教える。

介護福祉ロボットの導入を促す

患者さんに元気を渡す

高齢者の役に立つ活動を

児童養護施設で過ごす子達に笑顔を届ける

食べ物の好き嫌いをする子どもたち減らす

多くの女子生徒の生理の負担を少しでも軽減させる

中学生に睡眠の必要性について知ってもらう

福祉用のロボットを社会に普及させる。

福祉用ロボットを社会に普及させる

目の不自由な人を助ける

目の不自由な人を助ける

野球の存在を教えて体験してもらい、野球の普及につなげる。

野菜作りを手伝い、その野菜を使って、野菜嫌いを減らす！！

個人テーマが似ている者同士で
部屋を分ける。
その中で話し合いを進めて
2～4人のグループを作る

3人グループを基本とした
*今年度4人も可とした。

全46グループ

| | |
|-----|--------|
| 2人組 | 7グループ |
| 3人組 | 24グループ |
| 4人組 | 15グループ |



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

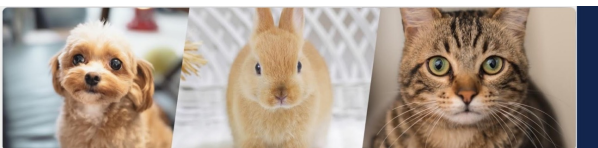
3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

ニーズ調査をする

①公的な資料を調査



NO MORE 殺処分！ ニーズ調査

コミュニティプロジェクトの活動で保護動物の現状を知ってもらい、殺処分ゼロに近づくことを目指しています。

1.殺処分の現状を知っていますか？*

知っている



②加えて

対象者へのアンケート調査

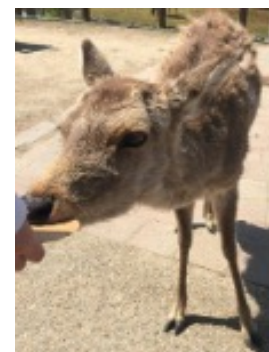
活動候補先へ ニーズ調査の依頼

見学施設への依頼、 現地でのインタビュー調査

| | |
|-----------------------|--|
| 見学目的 | |
| 見学希望日 (原則 月 木 金のみ) | |
| 見学希望時間 (いずれかに○) | |
| 見学希望人数 | |
| 質問・特記事項 | |

原則、センターの開館時間(15:00~20:00)以外の時間帯(午前中を除く)、および平日(月・木・金)での見学をお願いしておりますが、直前の依頼等、日によっては対応が難しい場合もありますので、日程に余裕をもってのお申し込みをお願い致します。
センターが発行する報告書等に学校名・企業名・団体名を掲載させていただきますのでご了承ください。掲載不可をご希望の場合は、質問・特記事項欄にその旨の記入をお願い致します。
※申込書に word か手書きでご記入の上、見学ご希望日の 1 週間前までに
メール staff@pridecenter.jp までお送り頂けますようお願い致します。

奈良公園での 現地調査の実施



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

グループの活動テーマ・目標を決める

私の目標は
(例: 認識を高める 教える 見本となる 作成する等) ことです。

具体的には
実際に子ども食堂へ行き、学習支援やお手伝いなどを行った後、SNS
上やポスターなど作成し子ども食堂の認知度を高める取り組みを

(↑特定のコミュニティーを書きましょう)

子ども食堂の現状や活動などを多くの人に知ってもらい、
地域全体で支えることができる子ども食堂にしたい
というニーズを満たします。

ルーブリックを作ることで
ゴールイメージを持つことに
つながる

探究のサイクルを
まわすきっかけ！！

何が達成できれば成功
と言えるのか
具体的に示した
ルーブリックを作成する

| | 0 | 1,2 | 3,4 | 5,6 | 7,8 |
|--|-------------|------------|------------------|--------------|--------------------------|
| 子ども食堂を支援した活動の内容についてのアンケートで肯定的な回答をした割合 | 0 | 1~25% | 26~50% | 51~75% | 76~100% |
| 作成したページの内容についての満足度を図るアンケートで肯定的な回答をした割合 | 0 | 1~25% | 26~50% | 51~75% | 76~100% |
| 新聞社への投書 | 書かなか った | 送らなか った | 送ったが採用 されなかった | 送って採 用された | 取材され記 事になった |
| ボランティアスピリ ツアワードへの応募 | 応募しな かった | 応募した | コミュニテ ィー賞受賞 | ブロック 賞受賞 | 文部科学大臣賞 もしくは奨励賞 受賞 |

調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

毎週振り返る

CP⑦⑧⑨ 2月3週 (2月13~17日)

今週の活動内容の記入、それが分かる写真やメモ・ワークシートを貼り付けよう

2/13 No.4班の方向性を決める
と面談して、欠点を補修した

2/15 ガイドp48の作成

2/17 ガイドp51の作成
公的資料を探す

【ATLスキルを発揮した場面と内容を具体的に書こう】

- 今週のATLスキル
- 様々なメディアから情報を探し、多様な考え方があることを理解する。(Information literacy)
 - 情報を機密にせず、批判的に読み、理解する。(Information literacy)
 - 様々な情報リソース(ネット・本・雑誌・新聞など)を読む。またそのつながりを考える。(Information literacy)
 - メディア(テレビ・ネット・新聞・雑誌)の特徴を理解する。(Media literacy)
 - メディアによって伝え方や考えが異なることを理解する。(Media literacy)
 - 伝え方や内容を考え、効果的に発信する。(アンケートやインタビュー内容) (Media literacy)

ニーズがあるかないかを探るときに、その資料元が本当に正しいかどうかを考えながらインターネットを使って探しました。できるだけ厚生労働省をもとに探したり、どのようなページかわからないときはそのページについてさらに調べたりして情報をより確かなものにしていきました。その結果、従事者が減っているわけではなく「要介護者に対して従事者の人数が追いついていない」から問題視されているという認識に改めることができました。

インターネットだと文だけでなくグラフも載っていてわかりやすかったです。

元々の認識が違っていることが問題だったので、これからも認識の差がグループ内で出ないように注意しようと思いました。

取り組みに対する形成的評価

黄色シートにおける不十分な部分) 記述例を参考

- Excellent
- Better
- Good
- Poor

- 活動計画の内容が乏しい(メモ・画像等)
- ATLスキルとの関連が具体性に欠ける。
- ATLスキルとの関連性が低い。
- 記入に不備がある
- その他()

- ①何をした
- ②発揮したスキル
- ②その場面
- ②活用内容
- ③その結果、どうなった
- ④今後の展開

毎週1回授業終わりの10分間
生徒はプロセスジャーナルに
振り返りを記入

SV教員はロイロノートで形成
的評価を行う

昨年度からの変更点
PJの記入回数
毎時間→毎週1回

活動内容が連続しているため大きく変わりが
ないことがある。また活動時間を確保するため。



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

本時で活用したスキルに分ける

「調査」で主に使う
リサーチスキル

【ATLスキルを発揮した場面と内容を具体的に書こう】

今週のATLスキル

- データを集め、評価し、解決策を検討する。(Information literacy)
- 情報機器を安全に、違法行為をすることなく責任をもって使う。(Media literacy)

生徒はこちらが提示したスキルを意識して取り組み、そのスキルについての振り返りを行う。



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

調査段階を通しての振り返りをする

「調査」で主に使う
リサーチスキル

事前

今のあなたが十分身につけていると感じる項目にチェックをつけましょう。

6 情報スキル

- 学術的誠実性（盗作や2次資料ではないこと）を理解する
- APAスタイルで参考文献を書く
- 正しい書き方で引用を書く
- 様々なメディアから情報を探し、多様な考え方があることを理解する
- データを集め、評価し、解決策を検討する。
- 情報を鵜呑みにせず、批判的に読み、理解する。
- 様々な情報リソース（ネット・本・雑誌・新聞など）を読む
- 様々な情報リソースのつながりを考える。

7 メディアリテラシー

- メディア（テレビ・ネット・新聞・雑誌）の特徴を理解する
- メディアによって伝え方や考えが違ふということを理解する
- 情報機器を安全に、違法行為をすることなく責任をもって使う
- 伝え方や内容を考え、効果的に発信する

事後

この【A:調査】であなたのリサーチスキルはどのように高められたのかを具体的に書きましょう。【新たに身についたこと、更に高まったこと】どちらでもOK

以前は何も見ずにAPAスタイルで正しく参考文献を書いたりすることができなかった。また、データを集め評価することはできても解決策を検討するまでできなかった。

インフォメーションリテラシースキルやメディアリテラシースキルを高めるために先輩に質問をしたり、電話でのニーズ調査を行う場面で、資料から読み取れることから質問を考えたり、中学生の自分達ができることでどのようにすればニーズに応えることができるのか考えた。

それらの活動を行う上でより多角的な視点で物事を見れるようになり、客観的に、現実的に考えられるようになったと思う。また、メディアの特徴を理解し、メディアによって伝え方や考え方が違ふということも理解することができた。特に電話では声だけの対話で、緊張したりしてうまく伝えられないこともあり、文字ではなく声での情報なのでメモを取ったりなどしなくてはいけないこともわかった。だが、電話での情報は過疎地域の方々から直接の情報なのですごく貴重だし、偽りが無いと思った。そのため、今後この活動を行なっていく上でインターネットの情報よりも信憑性が高く、活用できる情報だと思うので電話などで直接得られた情報はしっかりとメモを取って活用したいと思う。

第1時

調査を行う前の時点で
できている項目に
チェックを入れる

第12時

リサーチスキルがどの
ように高められたかを
文章で振り返る



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

グループの活動テーマ・目標を決める

5W1Hを考え 活動の計画をしよう

When

活動の大まかな流れを計画しよう

1. 「行動」に向けて

● CPの授業がある日 ○ SV面談のある日

| 5月 | 6月 | 7月 |
|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 |
| 31 | | |

計画の進捗状況の確認

7月中に「行動」を終えるにはどうする？

- ① 7月のいつ活動する？
候補日 ()
- ↓
- ② いつから活動場所に連絡する？ (遅くとも1ヶ月前には連絡をし始めよう)
候補日 ()
- ↓
- ③ いつまでに活動場所を決める？
候補日 ()
- ↓
- ④ いつ活動に必要な準備物を作成する？
候補日 ()

もちろん、変更は可能です。大まかでいいので目安を立てよう！

活動に向けた準備が
できているか確認

Plan of Action [コミュニティプロジェクト活動計画表]

3年 [] SVの先生 []
3年 [] 先生 []
3年 []
3年 []

●活動テーマ

オーガニック野菜についての認知を高める。

●活動内容

①調査：生産農場を訪れてインタビューする
→インタビュー(電話)：「淡路369ファーム」さん
「花岡農園」さん
「淡路島ビオ種」さん
「フレッシュグループ」さん
→生産農場(訪問)：「EAT LOCAL KOBE『ファーマーズスタンド』」@東遊園地
②発信：SNS・ポスターを通して発信する
→SNS：Instagram アカウント名「okucp」
ポスター：大阪教育大学附属池田中学校内・各施設
③販売：実際に販売して買ってもらう、チラシを入れて商品をお渡しする
→野菜の販売を行う
→事後アンケートを取る

●活動場所

活動場所 池田駅前てらる広場
施設名 住所 〒563-0056 大阪府池田市栄町1-1
池田駅前てらる広場 電話番号
管理：都市公園管理センター 072 751 3070 (都市公園管理センター)
事務所：五月山動物園の売店2F
池田市綾羽2丁目5-33

●活動時期

7月2日(日)@池田駅前てらる広場
8月5日(土)@池田駅前てらる広場

●活動にかかる費用とその分担

| | | |
|------------|-----|----------|
| CP用ノート | [] | 27.5円/人 |
| CP用ファイル | [] | 68.75円/人 |
| ポスター印刷代 | [] | |
| 電車賃(池田駅まで) | [] | |
| 広場貸し出し料金 | [] | 250円/人 |

●SVの先生のサイン []

●保護者の方のサイン []

SVに報告しながら
「行動」内容を決め
計画をたて、
アポイントをとる



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

計画をたてる



オーガニゼーションスキル

- ・ 情報を、書き留めたり音声や画像で残し、適切に管理する。

今回のPJを書くまでに私たちは神戸市の東遊園地で毎週土曜日に開催されているファーマーズマーケットへと行ってきました。これは私たちが2年生の時から話していたことで、ようやく実践できたと感じ、とても嬉しかったです。そんな東遊園地では主催者の方に色々とお話を伺いました。その内容を「CPノート」という形でまとめていくことにしました。早速今までに決めたことを書き込んでいます。紙媒体にすることで、自分たちの成果が目に見えやすくなり良かったです。次回以降のCPでもきちんと情報を残しておけるようにしたいと思います。

情動スキル

- ・ 他の人からの批判やフィードバックを受け入れる。

これは先ほども言った通り東遊園地で使うことができたように感じます。批判ではありませんが、主催者の方にたくさんのアドバイスをいただきました。主なものとしては「広めるのも大切だが、実際に食べてみてほしい」という言葉です。この言葉がきっかけで私たちは池田市でファーマーズマーケットを開催することを第一の目標として活動していくことにしました。次回以降もSVの先生方などたくさんの人からアドバイスをいただきたいと思います。きちんと受け入れ、よりよい活動の形になるようにしていきたいと思っています。

活動されている方々から生の声を聴くと様々な視点を
得ることができそうです。

黄色シートにおける不十分な部分) 記述例を参考

ロイロノート (週1回) でのやりとりや
SV面談 (月1回) を通して
SVに報告・相談しながら進める



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

計画段階を通しての振り返りをする

「計画」で主に使う
自己管理スキル

事前
今のあなたが十分身につけていると感じる項目にチェックをつけましょう。

- 3.オーガニゼーションスキル
 - スケジュールを把握し、締め切りを守る
 - プロジェクト全体の道筋を計画する
 - 正しい書き方で引用を書く
 - 適切なゴールの設定し、それを達成できるような計画を立てる。
 - 進み具合を管理する。
 - 情報を、書き留めたり音声や画像で残し、適切に管理する。
 - 忘れ物をしない。
 - 目的によって様々な情報媒体(インタビュー・ネット検索・アンケート・本など)を使い分ける。
- 4.情動スキル
 - 粘り強くプロジェクトを行う。
 - がっかりすることがあってもくじけない。
 - 変化を恐れない。
 - 他人からの批判やフィードバックを受け入れる。
- 5.リフレクションスキル
 - 効果的ではなかった過程について、どうすればよかったか考えることができる。
 - 自分自身を建設的かつ批判的に振り返り、プロセスジャーナルを書く。
 - 効果的な学習方法に気づく。
 - 自分自身の学習の強みや弱みを理解できる。

事後
この【B:計画】であなたの自己管理スキルはどのように高められたのかを具体的に書きましょう。【新たに身についたこと、更に高まったこと】どちらでもOK

オーガニゼーションスキルではスケジュールを把握し締め切りを守ることを身につけることができた。
以前は予定が重複した日に忘れてしまっていたことがあった。
しかし、学習時やキッチンカー、スノーボード地域の方と知り合うまで、電話の日、パンフレットを書く日、アンケートを送る日、アンケートを受け取る日、アドバイスを受ける日など多くのスケジュールを管理する必要があった。
そこでオーガニゼーションスキルを活用して、決まったらすぐリマインダーに書いたり、手帳に書いたりするようにして情報を適切に管理することで、締め切りやスケジュールは定数以上守ることができた。
また、チームのメンバーで自分を書き留めたり、締め切りを忘れないようにした。
また、2つのアクション・プラン・ポートを作成。スタートの明確なゴールとゴールまでの目標を設定し、ゴールまでのスケジュールを設定した。
その際に、チームのメンバーで「いつまでにこれをやる」と「締め切り」と「内容」まで定めて早急に分担した。こうすることによって自分自身で何をすべきかが具体化され、取り組みやすくなるように、締め切りがあることで緊急性を持って取り組めるようになった。
今後のこのスキルを高めるためには、プロジェクト全体の進捗を管理することが重要である。プロジェクト開始から1ヶ月半の進捗を全て振り返ることで「ゴール」から逆算していつまでにポストスターをつけるのか、いつまでに実行する必要があるのか、いつまでに具体的なアクションの内容をキッチンカーの方と確認する必要があるかを整理し、把握し、進めたいと思った。
その際に一気に色々なことを進めるような無理な目標設定にするのではなく、締め切りが早い優先度の高いもの(レシピ作成、キッチンカーの方と計画を練る)から順に進めたいようにした。
情動スキルでは自分自身で頑張ることがあってもくじけない力をつけることができた。
最初電話で相談の電話ができていなくて分かった時に落ち込みだりどうしようと思ったりしていた。
しかし、情動スキルを使うことで頑張るのではなく、色々な方法を試したり、キッチンカーの方と話し合ったりと別の方法を模索し、積極的に電話をかけることができた。
何度も断られたけれど何度もチャレンジしたことで、自分達の案を改善している、現実的でない方法を見出すことができ、アクションに繋げることができた。
今後のこのスキルを高めるためには自分自身で自分自身を振り返り入れる必要があると思う。具体的には、アンケートで自分たちのアクションに対して反対の意見がでたり、方向性が間違っているといわれたときにそれを無視するのではなく受け入れて、自分たちの計画の改善点を提出していくのいいと思う。他人の批判的な意見を聞くことによって、自分たちの行動が本当にニーズがあるのかを確認することができたり、よりニーズのある活動に当てはまることができると思う。
リフレクションスキルでは、自分自身を建設的かつ批判的に振り返り、プロセスジャーナルを書くことができた。
最初は今自分たちでやるスキルを自分たちの生活の中でどう使うかという点で悩んでいた。
しかし、リフレクションスキルを使って「自分たちが最初に決めた目標に挑戦するのではなく、ニーズに合わせて変えていったほうがいい」というように自分たちの行動を批判的に振り返ることができるようになった。
今後のこのスキルを高めるためには効果的な学習方法に気づくことが重要だと思う。
具体的には、今回の活動で振り返りしても良かったり、メールと電話が行き違っていてよかったりや連絡を取ることができなかった。
今後のこのスキルを高めるためには自分自身で自分自身を振り返り入れる必要があると思う。具体的には、アンケートで自分たちのアクションに対して反対の意見がでたり、方向性が間違っているといわれたときにそれを無視するのではなく受け入れて、自分たちの計画の改善点を提出していくのいいと思う。他人の批判的な意見を聞くことによって、自分たちの行動が本当にニーズがあるのかを確認することができたり、よりニーズのある活動に当てはまることができると思う。
また、メールの中でやり取りより直接行った方が多く話の聞けたりする場で聞けたりするメリットがあると考える。
このようにどのような手段で学習行動するかというhowの観点で1個の方法に固執せず、より効果的な方法がないかを振り返るようにしていきたい。

オーガニゼーションスキルを活用して、決まったらすぐリマインダーに書いたり、手帳に書いたりするようにして情報を適切に管理することで、締め切りやスケジュールを忘れないようになった。



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

行動段階を通しての振り返り

「計画」で主に使う
社会性スキル
コミュニケーションスキル
思考スキル

事前

Actionの前のあなたが身につけていた項目にチェックをつけましょう。

事前

Actionの前のあなたが身につけていた項目にチェックをつけましょう。

1 コミュニケーションスキル

- 他者の意見をしっかり聞く。
- 適切なフィードバックを与えたり、受けたりする。
- 目的や聞き手に応じて、様々な話し方を工夫する。
- 目的や聞き手に応じて、それぞれ適切な書き方をする。
- プレゼンをするときは様々なメディアを使う。
- 目的をもって、アイコンタクト・ジェスチャーなどを使う。
- 効果的なメモをとる。
- レポートやプレゼンに向けて情報を正しく組み立てる。

4 コラボレーションスキル

- 様々な意見や様々なものの見方を考慮し尊重する。
- 共感する態度をとる。
- 自分の行動に責任を持つ。
- 他人が成功するように助ける。
- チームの中で適切な役割を担うことで衝突を避け、協力して仕事をする。
- どうやって意見の一致をできるのかを理解する。
- 平等と公平をもとに、決断をする。
- プロジェクトの目標や何ができるかについて先生やグループのメンバーと交渉をする。

プロジェクトに変更があるときは他の人の意見も取り入れた上で変更する

8 批判的思考スキル

- 問題を認識し、ゴールや目標を設定する。
- より現実社会にそった問題を提起し、探究する。
- 大がかりなプロジェクトを論理的に5W1Hなどの小さいパーツに分けて考える。
- 様々な観点から考える。
- SVやグループメンバーとよく話し合う。
- 理由をはっきり示して、判断をする。
- 推察をし、結論を導き出す。

9 創造的思考スキル

- 慣習を打破するような挑戦をする。
- パラパラに見る中の中につながりを見つける。
- 様々な可能性について考慮に入れてアイデアを出す。
- 新たな視点を生むために、反対側の側面から考える。
- 今まで教科で習った知識や技能をもとにして新しい製作物を生み出す。
- 柔軟に考える

10 転移スキル

- 教科で学んだ知識や技術を使って解決策を生み出したり製作物を完成させる。
- 今まで見たこともない状況でも、既習の知識や技能で対処する。
- 今まで深く考えてこなかった状況で探究することで、多様性を身につける。
- 学んだことを日常生活に生かす。
- 将来にわたって学びを続ける人となるように責任感を持つ。

傾聴力

【C:行動】であなたの社会性スキル・コミュニケーションスキル・思考スキルはどのように高められたのかを具体的に書きましょう。
【A:計画】で身につけたこと、更に高まったこと】どちらでもOK

社会性スキル

以前は、他の人のために行動するとき、自分ができること、自分がやりたいことといった「自分中心」の思考を基にしていた。しかし、アクションに当たり、相手のニーズを確認することの大切さを学んだ。自分がしたいことが相手にとっては不必要なものであったり、一般的に言われていることが当てはまらなかったりすることがよくあった。この経験を活かして、さまざまな人の意見を取り入れながら、本当に社会に必要とされている活動なのか、どうすればより問題解決に近づけるのか、という社会における自分たちの行動の意義を考えられるようになった。また、実際に販売を行うことで、お金の管理やお弁当の個数の管理など、自分の行動に責任をもつことができるようになった。

コミュニケーションスキル

以前は何か行動するとき、フィードバックを求めることが少なかった。アクションの際に、お弁当にアンケートを添付したり、パンフレットにアンケートを添付したりすることができた。アンケートによって、自分たちの活動が役に立ったか、そうで無いか、ということだけではなく、どう役に立ったのか、もっとこうすればいいと思う、というような今後に役立てられる情報を汲み取ることもできた。また、大人の人と電話やメールをすることで、「電話上のマナー」、「メールのメリット、デメリット」といったコミュニケーションにおける重要なことを学ぶこともできた。電話では相手側が都合がいいかを確かめたり、メールならその場で受けられないから詳しく説明したり、

思考スキル

以前は行き詰まったときに、1つの考え方にとらわれすぎて進まないことがよくあった。例えば「野菜嫌いを減らす」ことにとらわれて、必要がないと分かったときに活動に行き詰まっていた。しかし、「食べることを強制する必要はなくとも給食などで食べられた方がいい」という意見があるから、食べてみるきっかけとなるようなレシピを作ればいいのか」というように考察しながら話し合うことで、解決策を導けるようになった。また、アクション中にトラブルが起こったときに、「アンケートに答えられないならこの設定を変えたらうまくいく」というように柔軟な思考を持って対応することができた。また、お弁当が売れていることを、お客さんの立場から考えて「商品に関するこういう」と考えることができたように、別の立場の視点から考えることができた。

電話、メールのマナー

柔軟性



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

Final Presentationをする

中間発表 10月6日
最終発表 11月3日 (文化祭)

各教室に
分かれプレゼンする

1・2年生・保護者
も参加し、評価する



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

Final Reportを書く
(A4 4枚にまとめる)



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

Final Reportを書く
(A4 4枚にまとめる)



調査

2年
3学期

計画

3年
4月,5月,6月

行動

3年
7月,8月

振り返り

3年
9月-11月

Final Reportを書く (A4 4枚にまとめる)

5. Reflection(振り返り)

(1)活動に対する自己評価

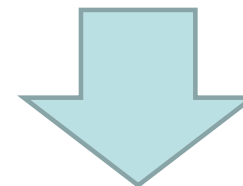
作成したウェブサイトへのアクセス数は当初の予定では外国人という自分達から離れた対象者に見てもらう必要があるため増加しにくいと考えていた。しかし先生方や知り合いの協力により、大幅に増やすことができ、現在は140回を超えることができた。ただ、ここでまずは自分達のスマホなどを使い、Twitterに投稿するなどの方法を試してからの方が良かったと反省している。

サイトへの満足度については、当初はアンケートをする予定はなかったが、3人で相談し初めて作成したサイトを客観的に見た時の評価が気になったので行うことにした。アンケートでは90%以上の方に良いと評価していただくことができた。

当初は外国人を対象としたパンフレットも作成予定だったが、対象である外国人は国外にいることが多いので、パンフレットではなく誰でも見れるインターネット上が良いと考え直した。

| | 0 | 1、2 | 3、4 | 5、6 | 7、8 |
|--------------------------------|-------------|-------|---------------|---------|----------------------|
| 基準1 作成したWeb サイトのアクセス数 | 0 | 1~15 | 16~30 | 35~50 | 51~ |
| 基準2 作成したWebサイトの 満足度調査の結果 | 0% | 1~25% | 26~50% | 51~75% | 76~100% |
| 基準3 作成したパンフレット の満足度調査の結果 | 0% | 1~25% | 26~50% | 51~75% | 76~100% |
| 基準4 ボランティアスピリット アワードへの応募 | 応募しな かった | 応募した | コミュニ ティ賞受賞 | ブロック賞受賞 | 文部科学大臣賞も しくは奨励賞受賞 |

調査の段階で自分達が作成した
ルーブリックをもとに自己評価する



生徒自身が何をねらいとしていたのか
なぜ当初の予定を変更したのか
考えることによって
主体的に取り組む姿が見られた



4. 生徒のすがた



-
- 社会への奉仕活動というのは、とても壮大なプロジェクトで、中学生の私たちとは少し遠い存在の、とても難しいものだと思っていた。しかし、一言に奉仕活動と言っても、**直接的なものや間接的なものを始めいろいろな方法があり、また規模に関しても様々で、子どもでも出来ることはたくさんあるということに気づくことが出来た。**また活動は、自分たちで課題を見つけて、その改善に向けて行動すればそれで良いと思っていた。しかし実際はそうではなく、アンケート等を使って**実際のニーズを確認し、それに合った活動を行わなければならない、臨機応変に動くことが大切だ**ということを知ることが出来た。これからも小さなことでも自分に出来ることを見つけ、積極的に行動を起こせるような人でありたいと思っている。



5. 学校全体で組織的に 取り組む工夫



CPは様々な人と協働的に取り組む学習である

生徒

全教職員

保護者

企業等関係機関

4つとも全て大切です。

- ・あえて4つの中で、協働的に取り組むことが難しいものを1つ挙げるならばどれでしょうか。
- ・取り組みを学校文化として根付かせていく上でポイントになるものを1つ挙げるならばどれでしょうか。



CPは様々な人と協働的に取り組む学習である

生徒

保護者

企業等関係機関

御礼状の送付、文化祭の案内
リスト化→継続して繋がる工夫

生徒用ガイドの活用
基本的にガイドに沿って取り組めば
活動を実施することができる



| 3年生（1学期）のスケジュール (B:計画 C:行動) | | | |
|--------------------------------|----|---|---------------|
| 計画・行動の段階で実施する具体的な活動内容 | | | |
| 4/12(木) | 1 | オンラインファン・メールATLスキルチェック(仮計画) SV発表、ガイドを使ったワークSWH | ガイド 30-36 |
| 4/14(金) | 2 | ガイドを使ったワークSWH1完成 SV発表資料作成、P2 | 30-36 |
| 4/26(木) | 3 | 計画の進め方 SVに活動内容計画書(仮)→SWH1を完成 その場で完成までの確認もふしして提出 | |
| 5/19(金) | 3 | SV発表の資料もともSWH1の書き直し P2 | 30-36 |
| 5/31(木) | 4 | 活動先との連絡の仕方について Presentationの作り方について 発表後の振り返り | 15,40,41 |
| 6/2(木) | 5 | Final Reportの書き方について ボランティアステディアドバイザーについて 計画の振り返り | 9-13 38,39 |
| 6/7(木) | 6 | B:計画の振り返り、C:行動の準備 Plan of Action作成 | 30-36,37 |
| 6/7(木) | 6 | SV発表 Actionの確認、活動日、活動内容の確認 Plan of Action 確認 | |
| 6/9(金) | 7 | B:計画の完成、C:行動の準備 事後ATLスキルチェック(仮計画)、P2 | 9-13 |
| 6/14(木) | 8 | 事後ATLスキルチェック(行動) Final Report(1:Introduction) C:行動に向けた活動を進める、P2 | |
| 6/16(金) | 9 | Final report:ボランティアステディアドバイザーの記入 C:行動に向けた活動を進める、P2 | |
| 6/21(木) | 10 | Final report:ボランティアステディアドバイザーの記入 C:行動に向けた活動を進める、P2 | |
| 6/23(金) | 11 | Final report:ボランティアステディアドバイザーの記入 C:行動に向けた活動を進める、P2 | |
| 7/7 | 12 | C:行動に向けた活動を進める、P2 | |
| 7/7 | 13 | Final report:ボランティアステディアドバイザーの記入 事後ATLスキルチェック、P2 | |



- ・ 保護者用ガイド
本校HPで動画配信
- ・ 実施計画書へのサイン
- ・ 最終発表での取組報告
- ・ 活動後のアンケート実施

参考：昨年の主な活動場所

| 食品・子ども食堂 | 動物保護・環境保護 |
|---|---|
| 団摩子ども食堂 団摩長屋 フードバンク関西 阪急オアシス ローソン 中庭山手5丁目店 コーヨー 川西店 なないろ食堂(キッチンカー) Lellen(ルリアン、洋菓子店) | 乗馬クラブクレイン北大阪 日本レスキュー協会 動物愛護団体JCDL 日本アニマルトラストハッピーハウス おおさかワンニャンセンター 南紀白浜アドベンチャーワールド ペットショップノアズアーク ペットショップポベット (袋町商店街) ペッツ・ファニー・ライフ・ジャパン 琵琶湖淀川水質保全機構 猪名川河川管理事務所 |
| 医療・福祉関係 | その他 |
| 大阪市立総合医療センター 株式会社知能システム 介護老人保健施設かがやき 介護老人福祉施設フルメゾン ふじせんの会 児童養護施設 子供の家 双葉学園 | JA大阪 くじらのペンギンハウスさん JA池川支店さん 青心社 講談社 海城版サイト対策総合窓口 石橋商店会事務所(いしばし商業活性化協議会)・石橋×阪大 版急バス株式会社 (石橋営業所 千里中央営業所) ジャーダック |
| 図書館・文化ホール | |
| 豊能町役場 豊能町立図書館 猪名川町役場 猪名川町立図書館 池田市民活動交流センター 池田市立3rd推進センター・ エコミュージアム 池田市立図書館 宝塚市立中央図書館 大阪国際交流センター ケアプランセンターポプラ池田 五月山児童文化センター アゼリアホール(池田市文化会館) | |



教職員

- ①教師用ガイドの作成
- ②教員研修の実施、記録・配信
- ③メンター制度の導入
- ④担当グループ数の配慮
- ⑤学習活動の報告、案内
- ⑥評価(形成的評価含む)の簡略化
- ⑦アンケートの実施、評価、改善

活動の目的
教師の役割
生徒への関わり方
評価等

この**一冊に集約**している。



SVガイドを見れば
何をすればいいかがわかる



SV用 CPガイド

第5回 SV面談内容

3回目

9月6日

・ 中間発表(約1週間後)のプレゼンのリハ
ーサルをさせる

実際に時間を測って(1チーム10分)スライ
ドを使いながら発表させてください。

- ・ 内容のアドバイスをお願いします。
- ・ 流れについては決まった型がありますので
それを大きく変えることはないようにしてくだ
さい。(生徒用ガイドp 参考)

こんな場合は活動が遅れ気味です

SV面談以外に相談する時間を作ってください

- ・ スライドが完成していない
- ・ 話す内容や役割分担ができていない

上記2つに当てはまってい
たら大ピンチです



教職員

- ①教師用ガイドの作成
- ②教員研修の実施、記録・配信
- ③メンター制度の導入
- ④担当グループ数の配慮
- ⑤学習活動の報告、案内
- ⑥評価(形成的評価含む)の簡略化
- ⑦アンケートの実施、評価、改善

・4月 CP,SVの概要説明

・毎月1回のSV面談後に情報共有の場の設定
評価方法の確認、教員による評価のブレの抑制



・会議の様子を動画で記録
→参加できなかった教員への配慮



D: 振り返りの評価

| 評価値 | レベルの説明 |
|-----|---|
| 0 | 生徒は、以下に記されたレベルのいずれの基準にも達していない |
| 1~2 | 生徒は: I. 行動裏に押し合わせた行動としての単社活動の質について部分的な評価を提供している。 II. プロシメラを完了させたことでサーベイラングの知識と理解がどのよ うに深まったかについての、限定的な振り返りを提供している。 III. ATLスキルの特徴についての限定的な振り返りを提供している。 |
| 3~4 | 生徒は: I. 行動裏に押し合わせた行動としての単社活動の質についてある程度 の評価を提供している。 II. プロシメラを完了させたことでサーベイラングの知識と理解がどのよ うに深まったかについての、ある程度の振り返りを提供している。 III. ATLスキルの特徴についてのある程度の振り返りを提供している。 |
| 5~6 | 生徒は: I. 行動裏に押し合わせた行動としての単社活動の質についてかなりの 評価を提供している。 II. プロシメラを完了させたことでサーベイラングの知識と理解がどのよ うに深まったかについての、かなりの振り返りを提供している。 III. ATLスキルの特徴についての振り返りから評価している。 |
| 7~8 | 生徒は: I. 行動裏に押し合わせた行動としての単社活動の質について優れた評 価を提供している。 II. プロシメラを完了させたことでサーベイラングの知識と理解がどのよ うに深まったかについての優れた振り返りを提供している。 III. ATLスキルの特徴についての詳細かつ正確な振り返りを提供している。 |

i. Final report D-1 の評価

1-2

評価に対する説明がない

3-4

webページの作成ができなかつた。交代を呼び忘れてよかった。
評価に対するコメントを書いているが、客観的意見だけで、評価や活動の変更に対する根拠の述べられていない。

5-6

評価や活動の変更に対する客観的な説明に乏しい。

7-8



教職員

- ①教師用ガイドの作成
- ②教員研修の実施、記録・配信
- ③メンター制度の導入
- ④担当グループ数の配慮
- ⑤学習活動の報告、案内
- ⑥評価(形成的評価含む)の簡略化
- ⑦アンケートの実施、評価、改善

教員のメンターグループを設定し、教員同士で相談しやすい環境を作る

*水色 3年担当教員

*黄色 研究部教員

メンターは本校在籍年数と担当学年によって決めている。
また、グループは内容が近いもので作成している。

| | |
|--|--|
| | 川の水質環境、改善 |
| | 海洋ゴミを無くそう |
| | 外来種を肥料に生まれ変わらせ、農業に役立てる |
| | 自分達の作ったゲームを小中学生に遊んでもらい、社会問題の現状、解決策(ひとりひとりにできること)を知るきっかけを作る |
| | 情報格差を減らすためにできること |
| | 不足している医療従事者の手伝いをし、そのようなことをインターネットに発信する |
| | インターネットを使った迷惑動画について |
| | 川を汚すことによって生じる問題の注意喚起 |
| | 農業を体験し、農業・農家さんのメリットを知り、子供などに伝えて未来の農家が一人でも増えるようにする。 |
| | 若者に農業の道を示す |

他学年の担任→1グループ

他学年の担任外、管理職→2グループ

3学年担当→3・4グループ



教職員

- ①教師用ガイドの作成
- ②教員研修の実施、記録・配信
- ③メンター制度の導入
- ④担当グループ数の配慮
- ⑤学習活動の報告、案内
- ⑥評価(形成的評価含む)の簡略化
- ⑦アンケートの実施、評価、改善

職員朝礼で使用する掲示板に連絡を定期的に行う

10月26日(木)

10月27日(金)

10月30日(月)



教職員

- ① 教師用ガイドの作成
- ② 教員研修の実施、記録・配信
- ③ メンター制度の導入
- ④ 担当グループ数の配慮
- ⑤ 学習活動の報告、案内
- ⑥ 評価(総括的評価・形成的評価)の簡略化
- ⑦ アンケートの実施、評価、改善

総括的評価はファイナルレポートでほぼ評価することができる。
他の評価物についても生徒が整理をして、教員の提出箱に提出。

評価材料

1. 調査

- ・ A1. Final Report
- ・ A2 Final Report
- ・ A3 ATLスキル変容シート

2. 計画

- ・ B1 Final Report
- ・ B2 1枚PJシートの青色カードのうち3枚
- ・ B3 ATLスキル変容シート

3. 行動

- ・ C1 活動内容・Final Report
- ・ C2 ATLスキル(思考スキル)変容シート
- ・ C3 ATLスキル(社会性・コミュニケーションスキル)変容シート

4. 振り返り

- ・ D1 SV面談(Final Report)
- ・ D2 SV面談(Final Report)
- ・ D3 SV面談(Final Report)

*PJをもとにFinal Reportを作成します。
各週の取り組みをPJにしっかりと記述しておきましょう。

| | | | | |
|--|---|----|-------|---|
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |
| | S | 先生 | あと56日 | > |

最終日の提出物

調査段階における自分の取り組み集
以下の順番で提出しましょう。

P6 P45 P48 P49 P51 P52 P53 P54 P55

この下にあなたの書いたものを上と同じように貼りましょう



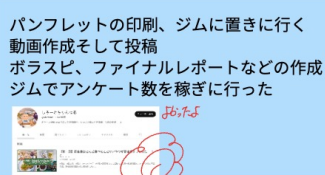
教職員

- ① 教師用ガイドの作成
- ② 教員研修の実施、記録・配信
- ③ メンター制度の導入
- ④ 担当グループ数の配慮
- ⑤ 学習活動の報告、案内
- ⑥ 評価(総括的評価・**形成的評価**)の簡略化
- ⑦ アンケートの実施、評価、改善

CP12.13 (7月2回)

今週の活動内容の記入、それが分かる写真やメモ・ワークシートを貼り付けよう

パンフレットの印刷、ジムに置きに行く
動画作成そして投稿
ボラスピ、ファイナルレポートなどの作成
ジムでアンケート数を稼ぎに行った



【ATLスキルを發揮した場面と内容を具体的に書こう】

批判的思考スキル
問題を確認し、ゴールや目標を設定する。
より現実社会にそった問題を提起し、探究する。
大がかりなプロジェクトを論理的にSWHなどの小さいパーツに分けて考える。
既存のメディアやテクノロジーを改良して使う。
様々な観点から考える。
SWやグループメンバーとよく話し合う。
理由をはっきり示して、判断をする。
推察をし、結論を導き出す

創造的思考スキル
慣習を打破するような発想をする。
人が考えつけないような斬新で新しいアイデアを出す。
様々な可能性について考慮に入れてアイデアを出す。
論理的な課題解決方法を考える。
問題に対する解決策を生み出す。
今まで教科で習った知識や技能をもとにして新しい製作物を生み出す。
柔軟に考える。

転移スキル
教科で学んだ知識や技能を使って解決策を生み出したり製作物を完成させる。
今まで見たこともない状況でも、既習の知識や技能で対応する。
今まで深く考えなかった状況で探究することで、多様性を身につける。
学んだことを日常生活に生かす。
結果にわたって学びを続ける人となるように責任感を持つ。

コミュニケーションスキル
目標の達成もつくりやすく、適切なフィードバックをみえたり、受けたりする。
目的や関心事に応じて、様々な話し方を工夫する。
目的や関心事に応じて、それぞれ適切な働き方を考える。
プロジェクトなどとは異なるメディアを使う。
プロジェクトの目標や何ができるかについて先生やグループのメンバーと交渉する。
プロジェクトに必要があるときは他の人の意見も取り入れてうえで実行する。

社会的スキル
様々な意見や様々なものの見方を考慮し尊重する。
共通する態度をとる。
自分が行う前に質問する。
他の人が成功するように助ける。
チームの中で適切な役割を担うことで、衝突を避け、協定して仕事をする。
どうやって意見の一致をさせるかを理解する。
平等な公平さをとる、議論する。
プロジェクトの目標や何ができるかについて先生やグループのメンバーと交渉する。
プロジェクトに必要があるときは他の人の意見も取り入れてうえで実行する。

取り組みに対する形成的評価

黄色シートにおける不十分な部分) 記述例を参考

Excellent
 Better
 Good
 Poor

活動計画の内容が乏しい(メモ・画像等)
 ATLスキルとの関連が具体性に欠ける。
 ATLスキルとの関連性が低い。
 記入に不備がある
 その他()

①何をした
 ②発揮したスキル
 ②その場面
 ②活用内容
 ③その結果、どうなった
 ④今後の展開

選択式の形成的評価方法を作成

取り組みに対する形成的評価

黄色シートにおける不十分な部分) 記述例を参考

Excellent
 Better
 Good
 Poor

活動計画の内容が乏しい(メモ・画像等)
 ATLスキルとの関連が具体性に欠ける。
 ATLスキルとの関連性が低い。
 記入に不備がある
 その他()

①何をした
 ②発揮したスキル
 ②その場面
 ②活用内容
 ③その結果、どうなった
 ④今後の展開

取り組みに対する形成的評価

黄色シートにおける不十分な部分) 記述例を参考

Excellent
 Better
 Good
 Poor

活動計画の内容が乏しい(メモ・画像等)
 ATLスキルとの関連が具体性に欠ける。
 ATLスキルとの関連性が低い。
 記入に不備がある
 その他()

①何をした
 ②発揮したスキル
 ②その場面
 ②活用内容
 ③その結果、どうなった
 ④今後の展開

積極的に活動できました。お世話になった方々への感謝を大切にしましょう。

形成的評価は活動を大きく左右する

重要だからこそ簡略化

続けて行うことが最重要

子どもと共に学ぶ
伴走者



教職員

- ①教師用ガイドの作成
- ②教員研修の実施、記録・配信
- ③メンター制度の導入
- ④担当グループ数の配慮
- ⑤学習活動の報告、案内
- ⑥評価(総括的評価・形成的評価)の簡略化
- ⑦アンケートの実施、評価、改善

プロセスジャーナルにどのくらいの頻度でフィードバックをしましたか。

評価するにあたり、**CP**評価材料
(プロセスジャーナル・**final report**・面談)の量はどうか



教職員

- ①教師用ガイドの作成
- ②教員研修の実施、記録・配信
- ③メンター制度の導入
- ④担当グループ数の配慮
- ⑤学習活動の報告、案内
- ⑥評価(総括的評価・形成的評価)の簡略化
- ⑦アンケートの実施、評価、改善

記述式



6. 生徒の活動内容報告



| | |
|------|-------|
| 移動 | 5分 |
| 発表 | 10分程度 |
| 質疑応答 | 10分 |

16時に一旦、全体終了の案内が流れます。

その後、個別で質問があれば、
CP担当者(多目的室)、各教室の教員(3年教員)
発表生徒に質問をして頂いても問題ありません。

